

仰げば高き(校長便り H30 No.18)

思い出は いつの日も 雨…

校長 松 中 泰 幸

雨の卒業式となりました。「思い出は いつの日も 雨…」そんな歌が流れていた頃、皆さんはこの世に生を受け、18年が経ちました。本日ここに、朝来市長、多次勝昭様を始め、多数のご来賓、保護者の皆様に、ご臨席を賜わり、第71回 兵庫県立生野高等学校 卒業証書授与式を、厳粛かつ盛大に挙行できますことは、卒業生はもとより、教職員、在校生一同、誠に光栄であり、心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました80名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子様の成長を支えてこられた保護者の皆様、心よりお祝い申し上げます。

校長室で数多くの卒業生から話を聞きました。進路について聞くと「人の役に立ちたいから」と言って、医療、介護、消防、警察の仕事に就きたい、「子どもの教育に関わりたい」と保育士や小学校の先生になりたいと夢を語ってくれました。志望理由がはっきりしている生徒が多く、しかも「人の役に立ちたい」と泣かせることを言うてくれる皆さんでした。親御さんと同じ職に就こうとする生徒も多いなと感じました。

大学入試の面接試験の一コマを教えてくださいました。「『人類がこれまで発明した最も偉大なものは何か?』との問いに、しばらく考えて『文字』と答えました」それを聞き、内心、「合格!」となりました。ある生徒は「生野高校では、分かるまで教えてもらえる、そのペースが僕には合っていました。自分でも高校で伸びたと思います」と教えてくれました。また、進路が決まった後に、生徒会役員として頑張ってくれた人たちにも頭が下がりました。

さて、卒業生の皆さんはご両親からいただいたものがありますが、何だか分かるでしょうか。命です。自分がなぜこの世に生まれたか、そんなことを考えたことはありませんか。親の立場から言うと、全くの偶然なのです。皆さんが生まれたのが2000年4月から2001年3月、保護者の皆様は、お子様が誕生した日のことを昨日のこのように思い出されるのではないのでしょうか。とうとう父親になった、母親になったという方も大勢いらっしゃるでしょう。

これまでも、そしてこれからも、人生は選択の連続です。皆さんは生野高校を選択し、それによって出会えた人がいます。進学や就職、その進路先を選んだがゆえに、新たに出会う人がいるでしょう。私はバレーボールというスポーツを選び、それゆえ出会い、今も付き合いの続く仲間がいます。また、教員という職業を選んだことで、巡り巡ってこうして皆さんに出会いました。

遡れば、ご両親が出会われたことも、無数の選択、偶然の重なるの末の出会いであり、奇跡のような出会いの末に皆さんが誕生しました。だから、「生まれてきてくれてありがとう」であり、「立派に成長して、高校卒業おめでとう」なのです。少し見方を変えれば、宝物である皆さんに出会うためには、お父さん、お母さんはそれぞれお母さん、お父さんと出会う必要があった、と言えるかもしれません。偶然の重なりこそが必然です。ご両親からいただいたもの、次に続いていくものという意味で、偶然の連なり、それが皆さんの、そして我々の命です。

さて、その命、どう燃やしますか。命は限りある燃料です。

若い皆さんには、未来があります。未来とは、時間です。未来とは可能性です。皆さんを迎えてくれるのは、国境を越えて、ヒト、モノ、お金、情報などが大量に高速で行き交うグローバル社会です。3年前、引率先のボストンで出会った日本人はマラリアの治療薬の開発に取り組んでおられました。私が「先生のような優秀な方がアメリカで研究するのは頭脳流出ですね」と言いかけると、「マラリアの研究に国境を設けるべきではありません」と言われました。研究者としての矜持を感じると同時に、私の心の中にある国境に気付かされました。皆さんの先輩である銀嶺会の方もたくさんの方々が世界を舞台に活躍されてきました。皆さんの中からもグローバルな舞台で活躍する、志ある人が数多く出てくることを期待します。

一方で、そのグローバル社会は、各分野でのしごを削る競争社会であり、格差を生み出しています。皆さんには生きる力が必要となります。英語では、power to liveではなく、power to surviveと訳されます。つまり、生き残る力です。様々な力が生き残る力として必要ですが、人は人の中で成長します。単なるコミュニケーション能力にとどまらず、時に助けを求める力さえ、孤立しないためにも必要です。

若い皆さんには未来があります。未来とは、希望であり、責任でもあります。皆さんは平成の次の時代の日本や地域を支える担い手となります。日本では急激な勢いで少子高齢化が進んでいます。この但馬もその例外ではありません。コウノトリ舞う但馬に必要なのは何より若いカップルです。AI(人工知能)の発達、ロボット技術・自動運転技術の進歩など、最先端の技術革新が人手不足や過疎化の進む地域の救世主となるのか、どのようにすればまちづくりに応用出来るのか、若い皆さんのしなやかな発想を期待します。

世界を舞台にした活躍と地域に根ざした活性化への貢献、一見矛盾した期待のように思われるかもしれませんが、両方とも私の偽らざる本音です。世界での活躍と地元への貢献、そしてご健勝を祈念して、71期生への餞のことばといたします。(平成31年2月28日(木) 卒業証書授与式式辞)